



Title	TA (Teaching Assistant) の声 サイバーメディア フォーラム no.12 情報教育システム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2011, 12, p. 47-50
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70323
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

TA (Teaching Assistant) の声

情報活用基礎を担当して

上田 佑樹

(情報科学研究科 情報システム工学専攻)

今年度の前期、3つのクラスで情報活用基礎のTAを担当させていただきました。端末が、私が4年前に受講した際の不慣れなLinuxから、身近なWindowsに替わっていて、今の学生が羨ましく感じました。

講義で、自分もあまり知らない内容 (HTMLのスタイルシートなど) が扱われた時は、質問に備えてあれこれと調べるうちに、自身の知識も増えるなど、勉強になる点多々ありました。

講義で担当になった、白石先生、三木先生、安藤先生に、この場を借りて感謝致します。そして担当だった学生の皆さんには、情報活用基礎で身に付けたスキルを、これからレポート作成や研究などで、是非役立ててもらいたいと思います。

小林 大翼

(情報科学研究科 情報ネットワーク学専攻)

私は過去にアルバイトで中学生、高校生と教えてきた経験があるが、TAに従事するのは今回が初めてで、大学生を相手にするのは新鮮な気分だった。

情報活用基礎の授業では基本的なプログラミングから情報発信に至るまで演習を交えて幅広い内容を扱うが、PCに慣れていない学生も多く、所々で苦戦している学生が見られた。

しかし感心したのは、苦戦しているなりに自身で解決方法を調べて解決していく者、複数人で協力して進める者、あるいは苦戦している者を手助けする場面が多く見受けられたことである。

各々が自ら解決に向けて進んで行くことができる

のはさすが大学生だと感じた。その中でTAに向けられる質問というのは中々に鋭く、考えさせられることも数多くあった。

一方で、質問をすることに慣れていないせいからなくても全く質問をしない学生も一定数いる。TA業務に就くことになった場合、是非そういう学生を見つけて声を掛けてあげて欲しいと感じた。

鈴木 晃祥

(情報科学研究科 マルチメディア工学専攻)

2011年度前期の情報活用基礎のTAを担当させて頂きました。

情報活用基礎では、MS-Officeの利用法、HTMLによるホームページ作成などの内容の実習を補助させて頂きました。

多くの学生が、Office系のソフトですら少しいじったことがある程度だったため、私が普段当然であると思っているようなことを聞かれることもあり、大学入学時に戻ったような感覚を覚えると同時に、普段自分のいる環境がいかに特殊であるかを考えさせられました。

また、私の担当させて頂いた看護学科では、複数の看護学の先生がオムニバス形式で、交代で授業を行っていて、皆さん違った専門を持っていらっしゃいましたが、授業終了後に生徒が「私も将来〇〇科で働きたいんです！」と、先生の所に集まる様子を見て、とても勉強熱心だと感じたし、自分も見習わなければと思いました。授業では、看護学に関する話題でいろいろな課題を与えていたのが印象的で生徒も関心を持って参加できていたのでよかったと思います。

徳山 瞬

(情報科学研究科 情報システム工学専攻)

私は、今年度前期に TA を 3 クラス担当しました。

受け持った全てのクラスで共通に感じたのは、生徒の能力の個人差がとても大きい、ということです。そのため、モニターを使った先生の説明に対し、少し聴いただけで課題をこなせる生徒から全く訳が分からないという生徒がいました。

先生方も、生徒のつまづくポイントがバラバラなので、それぞれの生徒に気を掛けながら指導するのが難しそうな様子でした。

このような生徒間の差異を少しでも吸収できるよう、生徒の能力に応じた分かりやすい指導をし、先生の補完をすることは、難しくもあり楽しいことでした。

学部 1 年生にとってこれからは、研究やレポートなどで、コンピュータを使いこなすことはもはや前提条件として求められると思います。

少しでもその役に立つことが出来たとしたらとてもうれしく思います。

西田 豊

(人間科学研究科 人間科学専攻)

2011 年度前期に人間科学部対象の情報活用基礎の TA を担当しました。

講義内容は MS-OfficeWeb ページ作成、プログラミングを主としたものでした。学生にとっては高校の授業のおさらいを含みながらも、初めて触れる内容も多くあり、戸惑いもあったかもしれません。

学生の習熟度、苦手意識や動機づけも様々な中、どのように対応するかが難しく感じました。計算機が好きだったり、使いこなせるようになりたいと思っている学生は、自発的に課題に取り組もうとするので、つまづいた所が出てきても少し助言するだけで学習が進みます。しかし、苦手意識が高かった

り、動機づけが低い学生はわからない所があっても、あまり TA を呼んで質問してくれないので、こちらから介入していく必要がありました。

TA として講義に参加することで、学生として出席しているだけでは分からないことを多く学ぶことができ非常に有意義なものでした。

馬勝 淳史

(情報科学研究科 情報システム工学専攻)

2011 年度前期に文学部と外国語学部の情報活用基礎の TA を担当しました。

どちらの学部とも PC に慣れていない子が多かったので、簡単な質問などの対応が多かったです。しかし質問に対しての答えを我々が全てやってしまっただけでは、学生のためにならないので、どれだけ補助を行うべきかの兼ね合いが難しかったです。

また、サイバーメディアセンターの PC の処理が重いために、ネットワークに接続する処理の時は、うまくいく学生とそうでない学生に差が生まれて混乱したりもしました。

学部、教室によって授業や雰囲気などが変わってくるので複数のクラス TA をするときには、臨機応変に対応することが大事と感じました。

安原 広幸

(情報科学研究科 情報システム工学専攻)

私は 2011 年度の前期に情報活用基礎の TA を担当させて頂きました。講義の内容としては、MS-Office を用いた実習、LaTeX を用いた文書作成、HTML 文書によるホームページの作成・公開などでした。

自分自身が情報活用基礎の講義を受けていたときは、それまで PC に触れる機会が少なかったために、PC の基本的な操作についても戸惑っていた記憶があります。担当教員が作成した講義資料を読みつつ、自分がかつてどのような場面で戸惑ったか、ということ思い出し、学生がどのあたりで躓きやす

いかの予測を立て、この質問に対してどう説明すべきか、といったように毎回予習をして TA に臨むことが出来たと思います。

学生にモノを教えるといった機会がこれまでなかったので、TA の業務は非常に貴重な経験になったと感じています。

矢野 耕史

(薬学研究科 応用医療薬科学専攻)

私は2011年度の前期に薬学部1年生の情報活用基礎の TA を担当しました。

講義内容としては、MS-Office、HTML によるホームページ作成などの実習でした。特に、MS-PowerPoint の使用法学習に関しては、グループごとに与えられた課題を各学生が分担して調査し、スライドにまとめ、プレゼンテーションを行うという実習が行われました。これは、PowerPoint の使用方法を実践的に学べるというだけでなく、与えられたテーマに関して調査し、まとめ、時間内にわかりやすく発表するという、プレゼンテーション力を鍛えられる実習であったと思います。

このような PowerPoint を利用してのプレゼンテーション力というのは学部生が研究室に配属されてから、特に卒業研究発表時には必ず求められるものであり、1年生時からこのような実習が行えるというのは非常にいい機会であると感じました。